

# 地域医療

旭中央病院を中核病院とした市民病院との経営統合は現在考えられる最善の方法だと支持する。

東総地

域医療連携協議会の活動と協議の経緯は。

答 東総地域医療連携協議会の協議経過について、昨年九月二十九日に総務部会の事務担当によるワーキンググループにおいて、旭中央病院との医療連携に当たつての本市の考え方を旭市に示し、その回答を得てしているところです。

また、今年二月に医療連携の効果や経営の効率化についての知識を深めることを目的として、静岡県の掛川市・袋井市新病院建設協議会等の先進地三ヶ所を視察しました。

なお、今後の予定として

は、三月に総務部会等

が開催され、その後、平成二十一年度の協議などを議題とした協議会が開催される予定です。

問 旭中央病院との協議を

医療連携から経営統合へと方針転換した理由は。

答 旭中央病院との経営統合の協議を進められた市民病院の問題についてですが、病院問題を考えるとき、何よりも優先しなければならないことは市民の幸せです。そのような思いの中で市民病院の自助努力だけでは経営改善を図ることは非常に困難な状況にありますので、旭中央病院との連携強

化、さらには経営統合が市民の幸せにつながるものであるならば、医療連携を進めることが市長に与えられた使命であると考えます。

問 総務省は、自治体に対し、公立病院改革ガイドラインを活用した公立病院改

革プランを今年度中に策定することを要請しているが、本市のスケジュールや方針等はどうなっているか。

答 ガイドラインでは公立病院改革の視点として、一、経営の効率化、二、再編ネットワーク化、三、経営形態の見直し、の三点を挙げ、改築二十年度中に改革プランを策定することとされています。

市民病院においては、公

的資金の補償金免除線上償還に係わる公営企業健全化計画に沿って経営の健全化に努めており、この計画においてもガイドラインの数値目標と同様の病床利用率目標一百分点以上を目指すとしています。

問 医療連携から経営統合へと方針転換した理由は。

答 旭中央病院との経営統合の協議を踏まえ、協議会の協議を踏まえ、合意性を図りながら策定していきたいと考えています。

問 東総地域医療連携協議会は、平成十九年度に県予算が百万円計上され、千葉県医療機関ネットワーク化推進モドリ事業などは実行されてきたと認識しているが

現状で、どういったことが決

定されているか。

答 東総地域医療連携協議会については、昨年七月に開催された東総地域医療連携協議会において、旭中央病院と市民病院との連携をモデルケースとして先行して実行することが決定されました。

答 銀次市長は、両病院の連携は医療連携に関する問題

を把握していく上でも両

病院が先行して連携するこ

とに賛成しています。

問 医療連携は、市民病院が九百五十七床、病床利用率

が九百三十六万五千

円、医師は市民病院が十七

人、看護師は、市民病院

が百二十一人、旭中央病院

が九百三十五人、事務部門

は市民病院が九十八人となっ

ています。

問 市民病院は、地域の医

師会や開業医、旭中央病院

を始めとする各病院との連携活動を行っている

ことなどが、その詳細は

答 地域医療の充実のため、

地元医師会の協力を得ながら当番制度により休日の一次救急医療体制の確保を図っているところです。

さらに、急な入院や手術等が必要な三次救急診療が、

地元医師会の協力を得ながら、市立病院の協力を得ながら、市立病院十九里木病院とともに輪番制により実施しています。

おいては、東洋病院の協力も得ながら、市立病院十九里木病院とともに輪番制により実施しています。

また、乳幼児健診やがん検診などの精密検査についても地元医師会並びに東陽病院にも協力ををお願いして

います。

問 旭中央病院の経営状況など

や医師確保の状況など

どのように把握しているか。

答 市営グラウンドには、

西側外周にグラウンド管

が高さしか設置されてお

らず、夜間は非常に暗い。

増設の考えは、

グラウンド活動など使用頻度

が高い施設だが、防犯灯

が一基しか設置されてお

らず、非常に暗い。

増設の考えは、

グラウンド活動など使用頻度

が高い施設だが、防犯灯

が一基しか設置されてお

らず、非常に暗い。